

# Windmolen



ロッテルダム日本人学校

谷崎 城

## 現地の方々と触れ合って…

せっかく海外の地にいるのだから、「現地の人と交流を深めたい!」と思っていました。ただ、なにせ言葉が話せない。どうしよう…。そこで、ある知人に紹介していただいたのが、“日本語教室”でした。ここは、日本に興味のあるオランダ人やその他外国人が、日本語を学びに来ているところでした。日本語を勉強しているだけあって、簡単な言葉なら日本語が通じました。

Fさんとは、彼が私にオランダ語を教えてくれる代わりに、私が彼に日本語を教えるというGive & Takeの関係で交流しました。彼はトルコ系の移民で、イスラム教の信者でした。我が家に招待し



日本語教室の皆とお食事。



オランダの遊び『シュレーン』



Fさん。手前は彼が作ったてんぷら。トルコ料理もおいしかったです。



私の作ったお好み焼きを食べるAさん



彼の作ったハッシュェ。

てもてなした時も、豚肉は使わないように気をつけました。逆に彼は、トルコ料理だけでなく、てんぷらを自らふるまってくれました。

しばらく、お互いの家を行き来しましたが、彼はその後、日本の大学に約9カ月間勉強しに行きました。「日本人の女性と結婚したい!」という夢を抱いていましたが、どうなったか…。

Aさんには、オランダの伝統的料理ハッシュェ(ビーフシチューのようなの)をご馳走してもらいました。オランダ料理は、残念ながら「おいしい」とは言えませんが、彼の料理は絶品でした。スープから締めデザートまで、コース料理をふるまってくれました。本当にお店を出せるくらいの腕前でした。

Jさんとは、一番付き合いがありました。クリスマスマーケットや朝市等に何回も誘っていただきました。水上タクシーに乗ってアフタヌーン・ティーに連れて行っていただいたこともありました。また、オランダの教育事情についてもいろいろ教えていただきました。日本の教育システムとの違いがよくわかりました。

さらには、彼女の叔母さんが元国会議員ということで、特別に国会を案内していただくことができました。本会議場の傍聴席だけでなく、一般人は入れない“党の部屋”“書庫”などにも入れていただき、Jさんの家では海鮮バーベキューをいただきました。感激しました。



Jさんの家では海鮮バーベキューをいただきました。



水上タクシーの乗り心地は“激しい”



アフタヌーン・ティーは初体験。



第2院の本会議場



書庫は本でビッシリ。



私の作ったお好み焼きを

絶賛してくれたMさん。



スピーチする参加者。



弁論大会の閉会式。

日本語教室の他に知り合った人もいました。Mさんはハーグで毎年3月に行われている『日本語弁論大会』の出場者でした。Mさんは、日本に彼女がおり、日本での就職を夢見ていました。彼の日本語力は大したもので、日本人でも難しい言葉をよく知っていました。

彼らが日本語を学ぼうと思ったきっかけは様々です。アニメ・マンガ・食べ物・陶器 etcに触れて、興味をもったのだそうです。語学というのは、単に詰め込みではなく、五感を使って触れることから始まるのだと痛感しました。

そもそも、オランダ人は、多言語の語学習得への意欲が高い国民なのではと感じました。オランダが商業立国として貿易を中心に栄えてきた歴史的背景より、共通言語である英語が非英語圏の中でもかなり普及したと見られます。国としても英語を第2言語として小学校卒業までに修得させることを目指しています。また、オランダでは、英語字幕がついているテレビ番組が多く、小さい時から英語に触れる環境が整っていると、あるオランダ人が言っていました。日本の場合は、映画をはじめとして、吹き替えが中心であり、英語教育を語る上でその点が大きく異なると感じました。

出会ったオランダ人は皆とても優しくかったです。何ごとに対しても寛容であるという国民性は、“他国で思想・信条を理由として迫害された人々を受け入れることで繁栄してきた”という自負があるためではないでしょうか。「多様性を認める」というのが、オランダの教育の根本にあるように思われます。

多くの人との出会いに感謝、感謝です。オランダでの経験は一生の宝になると思います。